

第 2 章 質問票の設計

第2章 質問票の設計

2.1 原子力の社会的受容性に影響を与える心理的要因

本調査では、これまでに原子力の社会的受容性に関する調査研究を整理し、また、近年のわが国における原子力に関する定量的社会調査を縦覧することによって、原子力の社会的受容性に関する意思決定に影響を与える要因を整理した。その結果、原子力の社会的受容性に大きな影響を与える普遍的な心理的要因は、「ベネフィット認知」、「リスク認知」、「信頼」であることを確認した。

この事実に基づき、また、近年の既往研究に見られる心理モデルも参考にして、原子力の社会的受容性に関する調査モデルとして、「ベネフィット認知」「リスク認知」「信頼」の3つを中心とした汎用の心理モデルを組んだ（図1）。心理的要因間の影響傾向は正負の符号で示した。

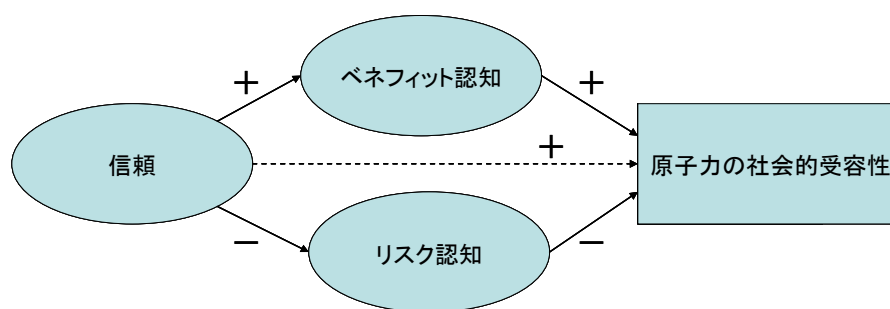


図1 「原子力に社会的受容性に関して見られる共通的な心理モデル」

2.2 調査項目の設定

調査項目を作成する上で、調査の主目的である定点的・経年的な変化の観察を重視しつつ、「2.1 原子力の社会的受容性に影響を与える心理的要因」のモデルを構成している心理的要因「ベネフィット認知」、「リスク認知」、「信頼」をどのように調査項目に含めることができるかを議論し、これまで質問票を設計してきた。

これまでの検討結果を踏襲した上で、有識者で構成される委員会において、ステークホルダーが必要とする情報を精査し、求められている情報を収集・分析するための調査項目を検討した。

また、社会的受容性の判断に影響を与えると考えられる個人的特性（性別・年齢・知識・社会性価値観・情報獲得行動等）を把握するために、「原子力や放射線に関する知識」、「社会性価値観（生活意識や行動に対する価値観）」、「情報獲得行動」の項目を設定した。

【調査項目】

- (1) 社会的受容性を測定する項目
- (2) ベネフィット認知を測定する項目

- (3) リスク認知を測定する項目
- (4) 信頼を測定する項目
- (5) 知識を測定する項目
- (6) 社会性価値観、情報獲得行動を測定する項目

2.3 質問の新設①（原子力発電所の再稼働）

本調査の実施前に九州電力（株）川内原子力発電所の再稼働が予定されているため、調査項目「社会的受容性を測定する項目」として、川内原子力発電所の再稼働に関する考えを問う設問を新設した。質問の選択肢を設定する上で、できる限り実態に沿った内容が望ましいため、鹿児島県薩摩川内地域の地域住民の代表者に事前ヒアリングを行った上で選択肢を設定した。

表1「事前ヒアリングの実施状況」

ヒアリング対象者	実施日
自治体職員（2名）	2015年9月8日
商工関係者①（2名）	2015年9月9日
商工関係者②（3名）	2015年9月9日

(1) ヒアリング項目の設定

川内原子力発電所の再稼働に関連する項目として、「原子力発電に対する考え」、「再稼働による影響」、「原子力関係者の対応」、「再稼働に関する報道」などをヒアリング項目として設定した。

【ヒアリング項目】

- 原子力発電と言うものをどのようにお考えでしょうか（東日本震災前・後）。
 - ・川内原子力発電所の再稼働について、お考えをお話してください。
 - ・あなたや地域にとって、再稼働は受け入れられるものでしょうか、それとも受け入れられないものでしょうか。また、その理由をお話してください。
 - ・原子力発電にとって、再稼働の位置づけはどのようなものだとお考えでしょうか（エネルギー／環境／経済性など）。
 - ・川内原子力発電所の安全性について、あなたはどのようにお考えでしょうか。
- 川内原子力発電所の再稼働による影響について、お話しください。
 - ・あなたや地域にとって、どのような影響がありましたか。
 - ・予想していなかった出来事や、心配な事柄はありますか。
- 原子力に関わる人々（事業者（電力会社）、規制者（原子力規制委員会）、行政、県や自治体）について、それぞれお話しください。

- ・川内原子力発電所の再稼働の前に、どのような対応がありましたか（説明会や見学会など）。また、それに対して、どのように感じましたか。
- ・再稼働の後、どのような対応がありましたか。また、それに対して、どのように感じましたか。
- ・対応について、良かった点、改善してほしい点、要望など、何でも結構ですので、お話しください。

○身の回りの方の意見は、どのようなものをお聞きしましたか。

○テレビや新聞の報道について、お話しください。

- ・地元では、川内原子力発電所の再稼働をどのように扱っていますか。
- ・気になるニュースや記事などがありましたら、お話しください。また、それは、なぜ気になるのでしょうか。その理由をお話しください。

(2) ヒアリング結果および再稼働に関する意見の抽出

川内原子力発電所の再稼働に関する考えについての設問の選択肢を設定する上で、事前ヒアリングで聴取した意見だけでは偏りがあるため、川内原子力発電所の再稼働した前後で報道された意見や主張も抽出した。そして、その意見等を大まかに類型化し、代表的な項目を調整し、選択肢として設定した。

【川内原子力発電所の再稼働に関する考えの選択肢】

○選択肢 1

(主な意見)

- ・原子力規制委員会が安全を担保しているので、再稼働は受け入れている。
- ・厳しい審査を経て安全対策を行った上での再稼働なら認めてもよいのではないか。
- ・川内原子力発電所は震災前に大きな事故を起こさずに運転していたので、再稼働しても大丈夫だと思う。

→安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う

○選択肢 2

(主な意見)

- ・福島第一原子力発電所の事故で日本のすべての原子力発電所が止まり、私たちが「原子力発電所なし」の暮らしを始めて約2年。猛暑の夏でさえ電気は足りている。
- ・原子力発電に依存しなくても、電力をまかなっていけると日本が自ら証明した。猛暑の今年も全国的に安定供給が実現されている。
- ・今、無理に急いで再稼働する必要があるとは思えない。

→現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う

○選択肢 3

(主な意見)

- ・国民の理解は得られていない。

→原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う

○選択肢 4

(主な意見)

- ・二酸化炭素の削減効果、温暖化対策としても重要なエネルギー源であり、再稼働せず、電力料金を抑え、地球温暖化対応でもそれなりのレベルをセットするのは不可能だ。
- ・電力安定供給へ重要な一歩。

→電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う

○選択肢 5

(主な意見)

- ・廃棄物処分の見通しも立っていない状況で、再稼働するのはどうかと思う。
- ・放射性廃棄物処理や避難計画の実効性などに多くの課題を残したままだ。

→放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う

○選択肢 6

(主な意見)

- ・原子力発電の安全性に対する不安は根強い。
- ・福島のようなになったらここには住めないので、怖い。
- ・事故が起きたら取り返しがつかない。福島を忘れないでほしい。

→万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないと思う

○選択肢 7

(主な意見)

- ・地域経済に与える恩恵は大きいと感じている。
- ・原子力発電は、地域の活性化に貢献していると考えている。

→原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う

○選択肢 8

(主な意見)

- ・ 万が一の事故のときに、避難することが心配だ。
- ・ 防災訓練もまだ不十分だと感じている。
- ・ 万全の避難計画が急務。

→防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ

○選択肢 9

(主な意見)

- ・ 国に最高の責任を持って対応してもらいたい。
- ・ 万一の場合に国が責任をとる姿勢が見えていない。
- ・ 原子力規制委員会も「基準は満たした、完全に安全とは言わない」と言っている。そういう話を聞けば、やはり不安には思う。
- ・ 政府がもっと前面に出るべきだ。

→政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う

○選択肢 10

(主な意見)

- ・ 電力会社が説明する態度には感心している。

→電力会社の安全性確保への取り組みを信じている

○選択肢 11

(主な意見)

- ・ 避難道路の建設などのお金の使い方を考えてほしい。

→電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい

○選択肢 12

(主な意見)

- ・ 再稼動については、地元住民でない人が集まって騒いでいる印象を持っている。
- ・ 今のマスコミの取り上げ方は、若干、騒ぎすぎだと思う。
- ・ 多くの地元の人たちは、川内原子力発電所の再稼動については、静観しているという印象を持っている。
- ・ サイレントマジョリティ（積極的な発言行為や意思表示をしない大多数の勢力）は、再稼動にはあまり関心がない。
- ・ 原子力発電があることを受け入れて生活していただだけだ。

→川内原子力発電所の再稼動について、多くの地元住民は静観しているという印象がある

○選択肢 13

(主な意見)

・火山の噴火が原子力発電所に及ぼす影響を心配している。

→火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ

○選択肢 14

(主な意見)

・再稼動したのだから、早く電気代を下げてほしい。

→原子力発電を再稼動したのだから、早く電気代を下げるべきだと思う

2.4 質問の新設②（情報獲得行動）

本調査では、エネルギーや原子力、放射線の質問だけでなく、2014年度より「社会性価値観（生活意識や行動に対する価値観）」に関する質問を追加するなど、情報の受け手の姿を深く分析するための質問項目を設けている。

2015年度は、様々なステークホルダーが活用できる情報発信方法について検討するために、新しい態度要因「情報獲得に関する行動（普段どのような方法や行動で情報収集を行っているのか）」についての質問項目を設けた。

(1) 情報獲得に関する行動の抽出

本調査の「原子力やエネルギーに関する情報収集に関する質問の選択肢」や「平成26年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書（平成27年5月総務省情報通信政策研究所）」より、情報獲得に関する行動を抽出した。

【情報獲得に関する行動例】

- ・講演会等へ出向く
- ・インターネット検索
- ・インターネット利用（パソコン、携帯電話等、メール、メルマガ、SNS）
- ・ホームページ等の保有
- ・新聞（折り込みチラシ）の閲読
- ・テレビの視聴
- ・ラジオの聴取
- ・雑誌の定期閲読
- ・自治体広報紙の定期閲読
- ・チラシ受け取り
- ・交通広告の閲読
- ・知人等の会話（情報交換の場）

(2) 情報獲得に関する行動の選択肢の設定

○選択肢 1

- ・講演会等へ出向く

→情報を得るために、講演会や博物館、図書館等に出かけることがある

○選択肢 2

- ・インターネット検索

→情報を得るために、インターネットで検索することがよくある

○選択肢 3

- ・インターネット利用（パソコン）

- ・インターネットの平均利用時間（平日）：83.6分（※1）より「1時間30分以上」と設定

→毎日1時間30分以上、パソコンでインターネットをする

○選択肢 4

- ・インターネット利用（携帯電話等）

- ・モバイル機器の平均利用時間（平日）：50.5分（※1）より「1時間以上」と設定

→毎日1時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットでインターネットをする

○選択肢 5

- ・インターネット利用（メール）

- ・「インターネットでメールを読む・書く」の平均利用時間（平日）：26.2分（※1）より「30分以上」と設定

→毎日30分以上、パソコンや携帯電話、スマートフォン等でメールを送っている

○選択肢 6

- ・ホームページ等の保有

→自分のホームページやブログ等を持っている

○選択肢 7

- ・インターネット利用（メルマガ）

- ・「パソコンで受信しているメルマガでいつも読む」メルマガの種類：4.9種類（※2）より「5種類以上」と設定

→週に5種類以上のメルマガ配信を受けている

○選択肢 8

・インターネット利用 (SNS)

・「インターネットでソーシャルメディアを見る・書く」の

平均利用時間 (平日) : 20.1 分 (※1) より「30 分以上」と設定

→毎日 30 分以上、SNS (LINE、フェイスブック、ツイッター等) を利用している

○選択肢 9

・新聞の閲読

・新聞の平均閲読時間 (平日) : 12.1 分 (※1) より「15 分以上」と設定

→毎日 15 分以上、新聞を読んでいる

○選択肢 10

・新聞の折り込みチラシの閲読

→新聞の折り込みチラシをチェックしている

○選択肢 11

・テレビの視聴

・テレビ (リアルタイム) の平均視聴時間 (平日) : 170.6 分 (※1) より
「3 時間以上」と設定

→毎日 3 時間以上、テレビを観る

○選択肢 12

・ラジオの聴取

・ラジオの平均聴取時間 (平日) : 16.7 分 (※1) より「30 分以上」と設定

→毎日 30 分以上、ラジオを聞いている

○選択肢 13

・雑誌の定期閲読

→定期的に購読している雑誌がある

○選択肢 14

・自治体広報紙の定期閲読

→定期的に自治体の広報紙を読んでいる

○選択肢 15

- ・チラシ受け取り

→路上等で配布されるチラシをよく受け取る

○選択肢 16

- ・交通広告の閲読

→交通広告（電車内の中張りポスター等）をよく見る

○選択肢 17

- ・知人等の会話（情報交換の場）

→情報交換の場に積極的に出かけるほうだ

※1：平成 26 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書
（平成 27 年 5 月／総務省情報通信政策研究所）

※2：メールマガジンに関する調査（2009 年 12 月／株式会社マクロミル）

2.5 調査項目の内容

(1) 社会的受容性を測定する項目

原子力の社会的受容性を測定する項目は、原子力利用、再稼働に関する質問が含まれる。

表2 原子力に関する社会的受容性を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
5		今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。	——
	4	原子力発電	総論
6-1		今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。	——
	1	原子力発電を増やしていくべきだ	総論
	2	東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ	総論
	3	原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ	総論
	4	原子力発電は即時、廃止すべきだ	総論
6-2		九州電力（株）川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。	——
	1	安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	再稼働
	2	現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	再稼働
	3	原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	再稼働
	4	電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	再稼働
	5	放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	再稼働
	6	万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないと思う	再稼働
	7	原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	再稼働

	8	防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	再稼働
	9	政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	再稼働
	10	電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	再稼働
	11	電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	再稼働
	12	川内原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	再稼働
	13	火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	再稼働
	14	原子力発電を再稼働したのだから、早く電気代を下げるべきだと思う	再稼働

(2) ベネフィット認知を測定する項目

原子力・放射線に関するベネフィット認知を測定する項目には、原子力に関する全体的な有用性の認知、個別トピックに関する有用性の認知、経済性や環境、放射線利用に関する有用性の認知が含まれる。

表3 原子力・放射線に関するベネフィット認知を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
7		あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか	_____
	a	原子力発電は役に立つ	原子力発電
	b	核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ	核燃料サイクル・プルサーマル
	c	原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる	経済性
	d	原子力発電がないと、電気料金が上がる	経済性
	e	原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないのので、地球温暖化防止に有効である	地球温暖化
	n	医療、工業、農業等における放射線利用は必要である	放射線利用

(3) リスク認知を測定する項目

原子力・放射線に関するリスク認知を測定する項目には、原子力発電や放射性廃棄物、エネルギー供給、放射線に関する不安についての質問が含まれる。

表 4 原子力・放射線に関するリスク認知を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
7		あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか	——
	f	今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う	原子力発電 安全性
	g	わが国のような地震国に原子力発電所は危険である	原子力発電 地震
	h	原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う	原子力発電 防災
	i	原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない	高レベル放射性 廃棄物の処分
	j	化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ	エネルギー供給
	k	自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ	放射線・放射能 汚染
	l	子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい	放射線・放射能 影響
	m	食品を選ぶときは、放射能について気をつけている	放射線・放射能 食品
8		現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行われています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。	放射性廃棄物

(4) 信頼を測定する項目

信頼を測定する項目では、「原子力の専門家」への信頼と「国」への信頼についての質問を含む。また、本質問はサブクエスチョンを備えており、なぜそのような回答になるかについての質問を含む。サブクエスチョンは、信頼を構成する要素について測定できるように構成されている。

※昨年度（2014年度）の調査は、「原子力の事業者」への信頼と「自治体」への信頼についての質問を設定

表5 原子力に関わる人・組織に関する信頼を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
9-1		原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか	信頼全般
10-1		原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか	信頼全般
9-2 10-2		あなたが、そう答えた理由は何ですか	——
	1	原子力の専門家/国は、専門的な知識を持っているから	能力
	2	原子力の専門家/国は、専門的な知識が不足しているから	能力
	3	原子力の専門家/国は、偏った見方をしているから	客観性
	4	原子力の専門家/国は、公平な見方をしているから	客観性
	5	原子力の専門家/国は、正直に話しているから	正直さ
	6	原子力の専門家/国は、正直には話していないから	正直さ
	7	原子力の専門家/国は、私たちのことを配慮しているから	配慮
	8	原子力の専門家/国は、私たちのことには配慮していないから	配慮
	9	原子力の専門家/国は、私たちと考え方が似ているから	共感
	10	原子力の専門家/国は、私たちとは考え方が違うから	共感
	11	原子力の専門家/国は、熱意をもって、原子力に携わっているから	熱意
	12	原子力の専門家/国は、熱意が感じられないから	熱意
	13	原子力の専門家/国は、管理体制や安全対策ができていないから	能力
	14	原子力の専門家/国は、管理体制や安全対策が不足しているから	能力
	15	原子力の専門家/国は、情報公開ができていないから	公開
	16	原子力の専門家/国は、情報公開が不足しているから	公開
	17	原子力の専門家/国を、信頼したいから	感情
	18	原子力の専門家/国を、信頼したくないから	感情

	19	国は、営利目的ではないから	意図 問 10 のみ
	20	国は、自分たちの利益優先に感じるから	意図 問 10 のみ
13		原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。	_____

(5) 知識を測定する項目

原子力・放射線に関する知識の測定については、テストのような客観的知識量の測定ではなく、回答者が知っていると自身で認識しているかどうかを問う主観的知識量の測定とした。主観的知識量と客観的知識量は一般的に高い相関を示し、回答者の態度表明には、主観的知識量の方が整合的な影響を示すためである。また、知識の程度（よく知っている、ある程度、知っている、聞いたことがある、知らない）を把握できる形式とした。

表6 原子力・放射線に関する主観的知識量を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
4		原子力やエネルギーに関する事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。	——
	a	日本のエネルギー自給率は6%である	エネルギー供給
	b	二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである	温暖化
	c	電気を安定的に供給するため、さまざまな発電方式を組み合わせさせて発電されている	エネルギー供給
	d	原子力発電はウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している	発電方法
	e	火力発電は化石燃料を燃やした熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している	発電方法
	f	フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている	エネルギー供給
	g	ドイツは今後、国内の原発を段階的に廃止する方針である	エネルギー供給
	h	プルサーマルでは原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電（軽水炉）の燃料として利用することである	プルサーマル
	i	使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという	核燃料サイクル
	j	軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である	原爆との差異
	k	私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている	放射線
	l	放射線と放射能は違う	放射線
	m	放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている	放射線利用
	n	確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響で、確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である	放射線影響

(6) 社会性価値観、情報獲得行動を測定する項目

社会的受容性の判断に影響する個人的な特性として、社会性価値観、情報獲得行動が挙げられる。本調査では表 7 に挙げるような項目を測定し、影響の程度を分析できるように設計した。

表 7 社会性価値観、情報獲得行動を測定する項目

問	選択肢	質問文	特性
情報収集 1		ふだんの情報収集や行動について、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。	——
	1	情報を得るために、講演会や博物館、図書館等に出かけることがある	講演会等への参加
	2	情報を得るために、インターネットで検索することがよくある	ネット検索
	3	毎日 1 時間 30 分以上、パソコンでインターネットをする	ネット-PC
	4	毎日 1 時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットでインターネットをする	ネットモバイル
	5	毎日 30 分以上、パソコンや携帯電話、スマートフォン等でメールを送っている	ネットメール
	6	自分のホームページやブログ等を持っている	HP 保有
	7	週に 5 種類以上のメルマガ配信を受けている	ネットメルマガ
	8	毎日 30 分以上、SNS (LINE、フェイスブック、ツイッター等) を利用している	ネット SNS
	9	毎日 15 分以上、新聞を読んでいる	新聞閲読
	10	新聞の折り込みチラシをチェックしている	チラシ閲読
	11	毎日 3 時間以上、テレビを観る	T V 視聴
	12	毎日 30 分以上、ラジオを聞いている	ラジオ聴取
	13	定期的に購読している雑誌がある	雑誌閲読
	14	定期的に自治体の広報紙を読んでいる	広報誌閲読
	15	路上等で配布されるチラシをよく受け取る	チラシ受取
	16	交通広告 (電車内の中張りポスター等) をよく見る	交通広告
	17	情報交換の場に積極的に出かけるほうだ	情報交換

情報収集 2		ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします。	——
	1	現在、ボランティア活動をしている。もしくは近年に活動したことがある	ボランティア
	2	ボランティア活動の経験はないが、機会があればぜひしたいと思っている	ボランティア
	3	地域の行事・イベント、地域の祭りなどにはよく参加するほうだ	地域への参加
	4	選挙はできるだけ欠かさず投票したいと思っている	選挙
	5	地域（コミュニティ）における住民同士のふれあいを大切にしている	地域への参加
	6	自治会・町内会、PTAなどの活動には進んで参加している	地域への参加
	7	街の美化や美観の保全是大事だと考えている	地域の美化
	8	市民はだれも、外からの訪問者や観光客には気配りし、もてなすべきだ	地域訪問者への気配り
	9	地域の伝統や文化は大事であり、継承していくように努めている	地域の伝統の継承
	10	地域の防犯や環境問題など、ご近所と協力し合って具体的に対処している	地域の防犯対策
	11	児童や若者の公共心の希薄化が気がかりだ	公共心の希薄への心配
	12	地域の問題や課題を行政まかせにしないで、市民も一緒に考え行動すべきだ	地域の問題への取組
	13	地域の出来事には常に注意して、さまざまな情報を見聞きするようにしている	地域情報の収集
	14	災害時には市民の助け合いが必要であり、ふだんから準備・訓練しておくべきだ	地域の災害対策
	15	地域の寺・神社などの文化財は心のよりどころとして大切にすべきだ	地域の文化財の保全

2.6 調査内容の継続性等の確認

経年的、定点的な変化の観察を行う上で、昨年度（2014年度）からの変更点を整理した。

(1) 原子力・放射線に対するイメージについて

○原子力に対するイメージに関する質問

・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

○放射線に対するイメージに関する質問

・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表8 イメージに関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問1	問1	あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。	変更なし
問2	問2	あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。	変更なし

(2) 原子力・放射線・エネルギーについての関心・知識について

○原子力・放射線・エネルギーについての関心に関する質問

・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

○原子力・放射線・エネルギーについての知識に関する質問

・放射線の確定的影響と確率的影響の回答が同じような傾向を示しているため、1つの質問に統合した。それ以外の質問については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表9 関心・知識に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問3	問3	原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。	変更なし
問4	問4	原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存じですか。 n) 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響である o) 確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である ↓ (統合) n) 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響で、確率的影響は、放射線を受ける	選択肢を統合

		量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である	
--	--	---------------------------	--

(3) 原子力・エネルギーに対する態度について

- 今後、利用・活用していくエネルギーに関する質問
 - ・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。
- 原子力発電の利用の考えに関する質問
 - ・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。
- 原子力発電の再稼働の考えに関する質問
 - ・九州電力（株）川内原子力発電所の再稼働した情勢を踏まえ、新設した。

表 10 態度に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問5	問5	今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。	変更なし
問6	問6-1	今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。	変更なし
—	問6-2	九州電力（株）川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。	新設

(4) 原子力・放射線・エネルギーについてのベネフィット認知について

○原子力・放射線・エネルギーについてのベネフィット認知に関する質問

- ・「核燃料サイクルは役に立つ」と「プルサーマルは役に立つ」の回答が同じような傾向を示しているため、1つの質問に統合した。
- ・「エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である」、「国産のエネルギーを増やすことは重要である」という質問は、肯定的な回答が多いという傾向に変化がないため、削除した。
- ・それ以外の質問については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表 11 ベネフィット認知に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問7	問7	あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。	変更なし
選択肢 a	選択肢 a	原子力発電は役に立つ	変更なし
選択肢 b, c	選択肢 b	核燃料サイクルは役に立つ プルサーマルは役に立つ ↓（統合） 核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ	選択肢を 統合
選択肢 d	選択肢 c	原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる	変更なし
選択肢 e	選択肢 d	原子力発電がないと、電気料金が上がる	変更なし
選択肢 f	選択肢 e	原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さない ので、地球温暖化防止に有効である	変更なし
選択肢 k	—	エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である	削除
選択肢 l	—	国産のエネルギーを増やすことは重要である	削除
選択肢 r	選択肢 n	医療、工業、農業等における放射線利用は必要である	変更なし

(5) 原子力・放射線・エネルギーについてのリスク認知について

○原子力・放射線・エネルギーについてのリスク認知に関する質問

- ・「防災体制は十分でないと思う」という判断が難しいため、「防災体制は整備されていると思う」という表現に改めた。
- ・「高レベル放射性廃棄物の最終処分」に関する項目が不足しているため、「原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない」という質問を新設した。
- ・それ以外の質問については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表 12 リスク認知に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問7	問7	あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。	変更なし
選択肢 g	選択肢 f	今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う	変更なし
選択肢 h	選択肢 g	わが国のような地震国に原子力発電所は危険である	変更なし
選択肢 i	選択肢 h	原子力発電所の周辺地域の防災体制は十分でないと思う ↓（修正） 原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う	表現修正
—	選択肢 i	原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない	新設
選択肢 j	選択肢 j	化石燃料を使い切ることやオイルショックが心配だ	変更なし
選択肢 o	選択肢 k	自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ	変更なし
選択肢 p	選択肢 l	子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい	変更なし
選択肢 q	選択肢 m	食品を選ぶときは、放射能について気をつけている	変更なし
問8	問8	現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行われています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。	変更なし

(6) 原子力に対する信頼について

○原子力の専門家に対する信頼に関する質問

・2013年度までは、「専門家や原子力関係者」を信頼できると思うかについての質問であったが、さらに詳しく世論の意識を把握するため、2014年度は、「専門家や原子力関係者」のうち「原子力の事業者（原子力発電所の運転事業を営む電力会社など）」についての質問とした。2015年度は、もう一方の「原子力の専門家※」を信頼できると思うかについての質問とした。

※原子力の学問・事柄を専門に研究・担当し、精通しているとされる方（研究機関の研究者、大学教授など）。

○国に対する信頼に関する質問

・2013年度までは、「国や自治体」を信頼できると思うかについての質問であったが、さらに詳しく世論の意識を把握するため、2014年度は、「国や自治体」のうち「自治体」について信頼できると思うかについての質問とした。2015年度は、もう一方の「国」を信頼できると思うかについての質問とした。

表 13 信頼に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問9-1	問9-1	原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか。 ↓ 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。	質問する事柄を変更
問9-2	問9-2	あなたが、問9-1でそう答えた理由は何ですか。 ↓ 全ての選択肢を「原子力の専門家は（を）」に変更。	質問する事柄を変更
問10-1	問10-1	原子力に関して、あなたは「自治体」を信頼できると思いますか。 ↓ 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。	質問する事柄を変更
問10-2	問10-2	あなたが、問10-1でそう答えた理由は何ですか。 ↓ 全ての選択肢を「国は（を）」に変更。	質問する事柄を変更

(7) 原子力・放射線・エネルギーについての広聴・広報について

○「国や自治体に望む取り組み」についての質問

- ・原子力発電所の再稼働にともない、多くの方が関心を示す防災体制に関する選択肢「防災体制の強化」を追加した。その他の選択肢については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

○原子力やエネルギーに関する日頃の情報源に関する質問

- ・日頃の情報源に関する質問は、2007年1月（第1回）から継続的に質問している項目であるが、「テレビ」を情報源とする回答の割合が突出して高い傾向が続いている。そこで、情報の受け手の意識を詳しく把握するため、「テレビ」という選択肢を「テレビ（ニュース）」、「テレビ（情報番組）」、「テレビ（ドラマ）」、「テレビ（CM）」の4つに細分化した。
- ・これまでのインタビュー調査などで追加項目として挙げられた「事業者の広報紙」、「スマートフォンのニュースアプリ」を追加した。
- ・その他の選択肢については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

○「原子力やエネルギーに関する情報源（人や組織の発言）の信頼」についての質問

- ・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

○「参加してみたい原子力やエネルギーに関するイベント」についての質問

- ・近年、インターネット経由で情報を入手する人が増えてきた状況を勘案し、選択肢に「バーチャル見学会（インターネットでの疑似見学）」、「インターネットでの講演会視聴」を追加した。
- ・その他の選択肢については、経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表 14 広聴・広報に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問11	問11	原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。 ↓ 選択肢に「防災体制の強化」と追加	選択肢追加
問12	問12	あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。 ↓ 選択肢に「事業者の広報紙」、「スマートフォンのニュースアプリ」を追加。 「テレビ」という選択肢を「テレビ（ニュース）」、「テレビ（情報番組）」、「テレビ（ドラマ）」、「テレビ（CM）」の4つに細分化	選択肢追加・修正

問16	問14	あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。	変更なし
問17	問15	「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。	変更なし

(8) 価値観、情報獲得行動について

○「エネルギーに対する価値観」についての質問

- ・「日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである」、「少く生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである」という質問は、回答の傾向に変化がないため、削除した。

○「科学技術・環境に対する価値観」についての質問

- ・「科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします」という質問は、回答の傾向に変化がないため、削除した。

○「情報獲得に関する行動」についての質問

- ・2015年度は、さらに詳しく社会的受容性の判断に影響を与えると考えられる個人的特性を把握するため、「情報獲得に関する行動」についての質問を新設した。

○「生活意識や行動に対する価値観」についての質問

- ・経年的、定点的な変化の観察を重視し、変更なし。

表 15 価値観、情報獲得行動に関する質問の継続・変更箇所

2014年度	2015年度	質問文	変更方法等
問7	問7	あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。	変更なし
選択肢 m	—	日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである	削除
選択肢 n	—	少く生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである	削除
問16	—	科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします	削除
—	情報収集 問1	ふだんの情報収集や行動について、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。	新設
問17	情報収集 問2	ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします	変更なし